

看護大通信

〈 88 〉

はなくなることも多いも同じ行動を繰り返した大切なことには変わりません。

例えば、ただウロウロ抗されるかもしれませ 疾患にとられず、行動に意味があるという視点

皆さんは「パーソンセ 状とその人の身体状況や と歩かれているように見 ん。これはよく考えてみ

ンタード・ケア」をご存じ 心理状態、周囲の環境に える徘徊(はいかい)も認 ると当たり前の感情で

ですか? 「その人中心 影響されて生じる行動症 知症の人にとってみれ す。トイレに行きたい、下

のケア」という意味で、イ 状があります。行動症状 ば、トイレに行きたいの 着を変えたいという不快

県立看護大学 老年看護学助教 認知症看護認定看護師 加賀美 亜矢子

な気持ち ちを理 が変わるとかかわり方が 変わり、認知症の人は穏 やかに安心して暮らして ゆけるのです。身近に認

認知症の人の気持ちに寄り添う

ギリスのトム・キットウ ッドによって提唱されま した。「パーソンフッド」 は対応が難しく、問題行 かもかもしれません。下着が 解し、対応すれば徘徊せ

その人らしさ」という、認 動といわれていた時期が 濡れてどうしたらよいの ずにすむのです。 みなさんの理解が深まる

知症をもつ人である前 ありました。しかし、これ か迷っているのかもしれ ます。そこで私たちが 異なること、認知症の人とその 家族にもやさしい地域に

に、人として尊重される は認知症の人自身にとつ ません。そこで私たちが ると同様に、認知症に なるのではないでしょう

べき考えや視点が大切で て問題なのではなく、か その目的を理解せず止 よって出現する症状と有 なるのではないでしょう

あるとされています。 かわる私たちにとつての める行為に出たとしたら 効な対応は異なります。 か?

認知症の症状には、記 問題なのであり、とらえ どうでしょう? 目的は かし、行動の基となる

憶障害を中心とする主 方を変えることで問題で 達成されていないので、 気持ちを尊重する姿勢が 載します

|| 次回は第1日曜に掲